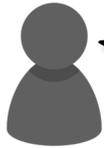




小中一貫教育説明会報告 その1

今回は、6月に4会場で実施した「東伊豆町小中一貫教育説明会」でいただいた意見や質問と教育委員会の回答・説明（当日の回答に追記した内容もあります）をご紹介します。※質問・意見は紙面の関係で要旨を載せさせていただきました。（説明会は、東伊豆町のホームページからYouTube動画でご覧になることができます。）



この説明会は夜間の開催だが、子育て中の保護者は日中の方が都合がいいことが多い。例えば、学校の参観日に時間をとって行うことを考えてもらえないか。

今回の説明会は夜間の時間帯に実施しましたが、次回は、幼稚園・保育園・学校などと相談して、参観日等、日中の時間帯に実施することも検討していきたいと思っています。

熱川・稲取それぞれ小中一貫の学校で教育するのは、熱川・稲取にこだわった人間を育てることにならないか。町全体を知り、考えることのできる子を育てる教育、東伊豆町を支えていく人間を育てるカリキュラムを考えていく必要がある。熱川と稲取を学ぶ交流活動も進めていくべき。



熱川・稲取それぞれの地域を基盤として、より地域と強く結びついた義務教育を進めていくための小中一貫教育を考えています。地域と連携しやすいコンパクトな教育体制をつくることを目的としていますが、熱川・稲取にこだわった教育ではなく、学習の中で、熱川の子が稲取に来て学んだり、稲取の子が熱川の施設を見学したりするような町全体の中で学ぶ機会をもつことも積極的に行っていきます。

また、児童生徒数が減少していく中で、熱川・稲取の子供たちがこれまで以上に交流する機会をもつことは重要であると考えます。例えば、スクールバスを活用して交流学习を行うことや、1人1台のタブレット端末を活用して意見交換を行うなどの交流を進めていきたいと考えています。



小学校同士、中学校同士で統合し、社会性を持った子供になってほしい。

教育委員会としては、20年後を見通した学校環境づくりを考えています。小学校同士、中学校同士の統合は、短期的には学年の人数や学級数の増というメリットがありますが、小学校同士・中学校同士を統合しても10年後には1学年1学級の学校規模となる見通しです。将来を見据えた町の教育環境として、横の同種学校統合ではなく、縦の小中一貫教育で、小学校1年生から中学校3年生までの年齢幅の広い児童生徒交流機会を増やすことで社会性を育てる教育を考えています。

裏面も見てください。





小中一貫教育説明会報告 その1 続き



小中一貫教育の特色ある学校づくりとして、どのような内容を考えているか。

特色ある学校づくりとして、小中一貫教育で認められている教科の特例を活用して、小学校低学年からの「英語教育」、地域をテーマとした9年間の「地域学習」などが考えられます。また、保護者・地域の方を委員とした学校運営協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」とすることも大きな特色になると考えています。

2校の小中一貫校で、部活動をどのように進めていくのか。



小中一貫のメリットを活用して、安全や体力的な配慮をしながら、希望する小学校5・6年生の部活動参加による活性化が考えられます（※中学生の対外試合には参加できません）。また、団体種目（個人戦のないもの）については、2校の合同部活動も考えられます。

さらに、地域スポーツ指導者や文化的活動ボランティアの協力を得られる部活動体制をつくっていく方向を検討していきます。



子供が少なくなり、いじめ等の問題が心配されるが、小中一貫教育でどのように対応するのか。

小中一貫の学校では、小中の教職員が子供たちを見守り、9年間を通した子供の表れと変化を共通理解しながら、継続的に心の問題やいじめ防止の対応、一貫した生徒指導を進めていくことができます。保護者と連携し、9年間の成長を通して同一歩調で子供たちを指導・支援していきたいと考えています。

熱川・稲取に小中一貫校を設置した後、将来一つの学校とすることはあるのか。



国の人口推計では、東伊豆町の出生児数は20～25年後に年平均11名と推測されているため、熱川・稲取に小中一貫校を設置した後、20年は2校を維持できると考えています。

将来、児童生徒数がさらに減少し、複式学級（国の基準で2学年以上が1つの学級となること）が生じるような学校状況となった場合は、町で1校にする検討をしなければならなくなる可能性があると考えています。



★ご質問・ご意見は、東伊豆町ホームページの【お問い合わせ】か
東伊豆町教育委員会【電話】0557-95-6207【〒】413-0411 東伊豆町稲取3354
【メール】kyouiku@town.higashiizu.lg.jp お願いします。